

# 令和2年度、平成27・28・29・30・31年度入学者

令和3年3月29日  
教養学部教務課前期課程

## 『履修の手引き』記載内容の変更について

令和3年度より、下記のとおり変更があります。  
本変更は、令和2年度以前に入学した学生にも適用されます。

記

### 1. 「アドバンスト文科」、「アドバンスト文理融合」の導入及びそれに係る 展開科目「文理融合ゼミナール」の開設

#### I 教養学部前期課程での学修

#### 3. 各科目区分の概要

##### (2) 展開科目

「展開科目」は、基礎科目での学びをさらに自ら主体的に展開させるための素地となる能力を涵養し、専門的学びへの積極的な動機づけを図るためのものである。社会科学ゼミナール、人文科学ゼミナール、自然科学ゼミナール、文理融合ゼミナールの4つに分類される。なお、社会科学ゼミナールと人文科学ゼミナールは「アドバンスト文科」として総称される。文理融合ゼミナールは「アドバンスト文理融合」とも呼ばれる。(略)

#### 4. 進学選択が可能となる条件と前期課程修了要件

##### (2) 前期課程修了要件（修得必要科目・取得最低単位数）等について

表2 前期課程で各科類の学生が取得すべき必要最低単位数

科目区分		科類	文科 一類	文科 二類	文科 三類	理科 一類	理科 二類	理科 三類
		(略)						
展 開 科 目	社会科学ゼミナール	任意選択						
	人文科学ゼミナール							
	自然科学ゼミナール							
	<u>文理融合ゼミナール</u>							
(略)								

#### II 各科目の履修方法

#### 3. 展開科目の履修

##### (1) 社会科学ゼミナール

社会科学ゼミナールは全科類の任意選択科目で、「法・政治」「経済・統計」「社会・社会思想史」「国際関係」の4分野の科目がある。成績は点数によらず、合格または不合格の評価による。

- ・各授業の履修人数は原則として最大20名である。
- ・履修希望者が多い場合には、初年次ゼミナール文科の成績などをもとに選抜を実施する。詳しい選抜方法は各授業による。

詳細は「Webによる科目紹介」(UTASログイン後の【シラバス参照】および『科目紹介』(電子

ブック)) で確認すること。

※令和3年度より、社会科学ゼミナールおよび次項の人文科学ゼミナールを「アドバンスト文科」として総称することとする。

(2) 人文科学ゼミナール

人文科学ゼミナールは全科類の任意選択科目で、「哲学・科学史」「歴史学」「文化人類学」「ことばと文化テキスト分析」「データ分析」の5分野の科目がある。

・授業の形態・履修条件・許容人数などは授業ごとに異なるため、履修に際しては、シラバスをよく確認すること。授業によっては、事前に履修希望者の選考を実施するものもある。

詳細は「Webによる科目紹介」(UTASログイン後の【シラバス参照】および『科目紹介』(電子ブック)) で確認すること。

※令和3年度より、人文科学ゼミナールおよび上記社会科学ゼミナールを「アドバンスト文科」として総称することとする。

(3) 自然科学ゼミナール

(略)

(4) 文理融合ゼミナール

文理融合ゼミナールは全科類の任意選択科目で、「認知と芸術」「身体と芸術」「メディアと芸術」の3分野の科目がある。

・授業の形態・履修条件・許容人数などは授業ごとに異なるため、履修に際しては、シラバスをよく確認すること。授業によっては、事前に履修希望者の選考を実施するものもある。

詳細は「Webによる科目紹介」(UTASログイン後の【シラバス参照】および『科目紹介』(電子ブック)) で確認すること。

なお、文理融合ゼミナールは「アドバンスト文理融合」とも呼ばれる。

IV 定期試験と成績の評価

2. 成績の評価

(1) 成績評価方法

(略)

優上・優・良・可・不可の評価による科目	合格・不合格のみの評価による科目
(略)	
<展開科目> ・人文科学ゼミナール ・自然科学ゼミナール ・ <u>文理融合ゼミナール</u>	<展開科目> ・社会科学ゼミナール
(略)	

(略)

(別表1) 各科類の履修プログラム

科目区分	取得すべき最低単位数	各セメスター・タームに取得すべき単位数								
		1 Sセメスター		1 Aセメスター		2 Sセメスター		2 Aセメスター		
		1 S1 ターム	1 S2 ターム	1 A1 ターム	1 A2 ターム	2 S1 ターム	2 S2 ターム	2 A1 ターム	2 A2 ターム	
(略)										
展開科目	社会科学ゼミナール	任意選択	任意 選択	/	任意選択					
	人文科学ゼミナール									
	自然科学ゼミナール									
	<u>文理融合ゼミナール</u>									
(略)										

(別表3) 展開科目授業内容概要

科 目 名		授 業 内 容
展開科目	社会科学ゼミナール	初年次ゼミナール文科その他の履修をふまえて、社会科学の基本的な考え方や成果のまとめ方を、少人数授業の形で学ぶ。大きくは、 <u>法・政治法学・政治学、経済・統計国際関係論、社会・社会思想史経済学・統計学、国際関係社会学・社会思想史</u> の4つの分野にわかれるが、担当教員によっては複数の分野に関わるテーマになることもある。 <b>【令和3年度より「アドバンスト文科」と総称】</b>
	人文科学ゼミナール	初年次ゼミナール文科・基礎科目等の履修を通して培った関心・知識をより深め、発展させるための、少人数ゼミナールである。哲学・科学史、歴史学、文化人類学、 <u>ことばと文化テキスト分析</u> 、データ分析の5分野があり、文献講読、フィールドワーク、データ分析などの実践を通して、人文諸学のより高度な内容を学ぶとともに、学問研究の方法を身につけることを目指す。 <b>【令和3年度より「アドバンスト文科」と総称】</b>
	自然科学ゼミナール	自然科学ゼミナールは初年次ゼミナール・基礎科目・総合科目を受けて、1A1ターム以降に開講される理科学向けの専門的な演習授業である。「身体運動科学」「生命科学」「化学」「物理学」「数理科学」「情報科学」「基礎工学」「医学」の8分野からなり、演習、実習、発表、議論を通して、アカデミックスキルを実践・活用する。
	<u>文理融合ゼミナール</u>	<u>基礎科目の修学を基礎として、分野を超えた思考様式や研究方法を少人数形式で学ぶ。文系と理系を横断する芸術の実践に取り組み、創造力や分野を超えた発想・問題解決能力を育むと同時に、人間科学に基づいて創造の経験を分析的に理解する視点も養う。「認知と芸術」「身体と芸術」「メディアと芸術」の3分野からなる。</u> <b>【「アドバンスト文理融合」とも呼ばれる。】</b>

## 2. 総合科目の新設及び変更

(別表4) 総合科目授業内容概要

区分	系列	大科目名	科目名	科目の授業内容	開講予定 セメスター・ターム	単位数
新設	C	現代社会論	<u>ジェンダー論</u> <b>【社会科学】</b>	<u>ジェンダー論における基本的な概念や知識を社会科学的視点から考察する。</u>	S/A	2
新設	C	現代社会論	<u>ジェンダー論</u> <b>【人文学】</b>	<u>性と身体に関する表象の歴史とその理論を人文学的な観点から考察する。</u>	S/A	2
変更	C	相関社会科学	相関社会科学	現代社会にかかわる学際的研究の成果を取り上げ、横断的・総合的な社会科学の基礎を講義する。 <b>【2022年度より廃止】</b>	S/A	2
変更	E	生命科学	動物科学	神経、筋肉、内分泌、免疫など動物に特徴的な生命現象について講ずる。 【Aに開講する場合は1年生対象、Sに開講する場合は2年生対象】	S/A	<del>1</del> また は2
変更	E	生命科学	植物科学	光合成、窒素代謝、植物ホルモンなど植物に特徴的な生命現象について講ずる。 【Aに開講する場合は1年生対象、Sに開講する場合は2年生対象】	S/A	<del>1</del> また は2

変更	E	アドバンスト理科	先進科学 Iα	物質科学に対する学習意欲の高い学生 (20名程度) を対象として、ナノサイエンス、量子物理学、量子情報、分子科学、合成化学などにおける高度で先端的な内容を講じ、課題解決への実践演習を含めたインタラクティブな授業を行う。	<u>S/A</u> <del>S・A</del>	2
変更	E	アドバンスト理科	先進科学 IIα	生命科学に対する学習意欲の高い学生 (20名程度) を対象として、生化学、分子細胞生物学、遺伝学、発生学、進化学などにおける高度で先端的な内容を講じ、課題解決への実践演習を含めたインタラクティブな授業を行う。	<u>S/A</u> <del>S・A</del>	2
変更	E	アドバンスト理科	先進科学 IIIα	複合領域科学に対する学習意欲の高い学生 (20名程度) を対象として、ソフトマター、非平衡現象論、システム生物学、宇宙・地球システムなどにおける高度で先端的な内容を講じ、課題解決への実践演習を含めたインタラクティブな授業を行う。	<u>S/A</u> <del>S・A</del>	2
変更	E	アドバンスト理科	先進科学 IVα	生命科学に対する学習意欲の高い学生 (20名程度) を対象として、構造生物学、分子細胞生物学、シグナル伝達、創薬などにおける高度で先端的な内容を講じ、課題解決への実践演習を含めたインタラクティブな授業を行う。	<u>S/A</u> <del>S・A</del>	2
変更	F	情報学	計算の理論	計算とは何か (計算モデル)、計算の限界 (計算可能性、計算量理論) など、理論計算機科学への入門	<del>S/A</del>	2

### 3. その他の変更

#### I 教養学部前期課程での学修

##### 1. 前期課程の概要

##### (6) コマと授業時間

前期課程の授業は、原則として**90分または105分**を一区切りとして行われる。この一区切りのことを**1コマ**と呼ぶ。一日の授業時間は以下のとおりである。

時限	<u>授業時間</u> <u>(90分)</u>	<u>授業時間</u> <u>(105分)</u>	(定期試験(本試験)時間) ※試験時間90分の場合
1時限	<u>8時30分 ~ 10時00分</u>	8時30分 ~ 10時15分	( 8時40分 ~ 10時10分)
2時限	<u>10時25分 ~ 11時55分</u>	10時25分 ~ 12時10分	(10時35分 ~ 12時05分)
3時限	<u>13時15分 ~ 14時45分</u>	13時00分 ~ 14時45分	(13時 <u>25</u> 分 ~ 14時 <u>55</u> 分)
4時限	<u>15時10分 ~ 16時40分</u>	14時55分 ~ 16時40分	(15時 <u>20</u> 分 ~ 16時 <u>50</u> 分)
5時限	<u>17時05分 ~ 18時35分</u>	16時50分 ~ 18時35分	(17時 <u>15</u> 分 ~ 18時 <u>45</u> 分)
6時限	<u>19時00分 ~ 20時30分</u>	18時45分 ~ 20時30分	( <u>19時10</u> 分 ~ 20時 <u>40</u> 分)

## II 各科目の履修方法

### 2. 基礎科目の履修

#### (8) 自然科学 数理科学

(略)

- ※ 他クラス聴講 (p. 〇〇) を行う場合には、自分が所属する科類を対象とする授業を申請すること。また、講義と対応する演習がある科目について、両方の他クラス聴講を行う場合には、同じクラスを対象とした講義・演習を履修すること。(ただし、後期課程の専門科目の必修科目と重複している等、時間割上の都合がある場合を除く)

(略)

## III 履修の手続きと授業受講に関する注意事項

### 1. 履修等の手続き

#### (3) 履修科目登録の確認・訂正

##### ① (略)

確認・訂正期間中にUTASで行う手続き

- 1) 履修科目の確認
- 2) 履修科目の取消し (削除)  
(後述「(4) 特別な手続きによる履修登録」により登録した科目はUTASでの削除不可)
- 3) 履修科目の追加  
(後述「(4) 特別な手続きによる履修登録」が必要な科目はUTASでの追加不可)

(略)

#### (4) 特別な手続きによる履修科目登録

##### ② 要履修許可科目登録 (履修認定カード)

対象科目	対象者
(略)	
進学選択における要求科目 (p. 〇〇以降) <u>のうち</u> <u>理科生向け基礎科目</u>	履修希望者
進学選択における要望科目 (p. 〇〇以降) <u>のうち</u> <u>理科生向け基礎科目</u>	履修希望者

(略)

### 履修認定カード

教員が要履修許可科目、他クラス聴講、補修などによる履修学生を確認するためのカードである。教務課前期課程窓口にて配付するので、必要事項を記入の上、該当の授業において担当教員に提出して許可をもらうこと。3枚綴りの複写式となっており、許可サイン欄に教員のサインをもらい、1枚目を教員に提出、2枚目を教務課に提出、3枚目を学生が保管する。

要履修許可科目、他クラス聴講、補修は、履修認定カードを教員および教務課の両方に必ず提出すること。提出していないとかたり、記載内容に不備があると、履修が許可されない場合や成績評価の対象とならない場合があるので注意すること。

なお、授業によっては、要履修許可科目、他クラス聴講、補修などによる履修学生の人数を制限しているため、原則として履修認定カード提出後の履修削除は認めない。やむを得ず削除が必要となった場合は、所定の期間中に該当の授業において担当教員に承認を得るとともに、教務課に申し出ること。

#### IV 定期試験と成績の評価

### 3. 成績評価が「不可」または「欠席」となった場合

#### (2) 追試験

(略)

※ 対応する数理科学講義科目（数理科学基礎、微分積分学①②、線型代数学①②）の受験資格Aによる追試験の成績が75点を上限として反映される。（演習科目のみを他クラス聴講している場合および過年度に演習科目のみ単位取得している場合を除く）

(略)

#### (3) 他クラス聴講

(略)

(注4) 数理科学の他クラス聴講を行う場合には、自分が所属する科類を対象とする授業を申請すること（p. 〇〇）。また、講義と対応する演習がある科目について、両方の他クラス聴講を行う場合には、同じクラスを対象とした講義・演習を履修すること。（ただし、後期課程の専門科目の必修科目と重複している等、時間割上の都合がある場合を除く）

(略)

以上